

まちのニュース

町内の話題をお届けします



▲一本一本丁寧に苗を植える児童

おいしいお米ができるかな

瑞穂小学校の児童

瑞穂小学校の5年生110人が5月27日、神房の水田で田植えに挑戦しました。

この田植えは、農林水産省の「農地・水・環境保全向上対策」の一環として、児童に米作りを通じて食べ物の大切さを知ってもらおうと、毎年行われています。

主催した瑞穂環境保全会の岩瀬貞一会長が植え方を説明し、「転ばないようにゆっくり楽しんでください」とあいさつすると、児童は靴を脱いで田んぼの中へ。瑞穂環境保全会や農林振興センター職員の指導のもと、1時間ほどかけて10アールにコシヒカリを植えました。

植えられたお米は、9月には児童の手で収穫される予定です。

▶南消防署員から放水の指導を受ける消防団員



実戦型の訓練を実施

町消防団員が技術を磨く

町の安全を守る消防団が、訓練を実施し、万が一に備えました。

◇普通救命講習会

東日本大震災を受け、現場で役立つ知識と技術を身に付けようと、5月22日、中部コミュニティセンターで町消防団員が、普通救命講習を受講しました。

この日参加したのは、第1分団から第4分団までの81人。南消防署の救急救命士から応急手当の重要性などの説明を受けた後、南消防署員・女性消防団員の指導のもと、訓練用の人形を使い、人口呼吸・心臓マッサージ・AEDを使用した実技訓練を行いました。

真剣な表情で、本番さながらに取り組んでいました。

◇ポンプ運用訓練

6月の毎週日曜日、町運動広場で、町消防団が分団ごと



▲女性消防団員からAEDの使い方の指導を受ける消防団員

花植えで交流

季美の森小学校の児童



▲季美の森先人会のメンバーから植え方を教わる児童

季美の森小学校の3年生47人が、6月1日、花植えを通じて、季美の森先人会と交流を深めました。

学校を訪れた季美の森先人会のメンバーの前に、まず、児童から歌のプレゼント。「世界に一つだけの花」を手話付きで歌いました。

その後、先人会のメンバーは自己紹介で児童をなごませると、花植えの手順を説明。作業に取り掛かりました。

先人会の手ほどきを受けながら、児童はガザニア・サルビア・マリゴールド・ヒマワリの苗を、プランターと花壇に丁寧に植えていきました。

一時間ほどの作業の後、たくさんのプランターが通路に並びました。夏には花盛りを迎え、学校を彩ります。

に分かれ、南消防署員の指導のもと、資器材の取り扱い・ポンプの運用訓練を実施しました。

今回の訓練は町操法大会が中止になったことから、これに代わり実施されたものです。火災現場で、迅速かつ安全に活動できるよう、普段使い慣れている自分たちの消防車

両を使って、資器材の点検や放水訓練を行いました。

訓練に参加した団員たちからは、「このような実戦型の訓練は初めてだったが、定期的に行うことが重要だと思った。今回指導を受けたことを確実に役立てていきたい」と訓練の大切さを語っていました。

◀高校生の指導で牛の世話を体験する児童

牛さん大きいね

季美の森小学校の児童

動物とふれあうことを通じて、命の大切さを学んでもらおうと、6月10日、季美の森小学校の1年生29人が、大網高校の中正農場を訪れ、高校生の補助を受けながら、動物とのふれあいを体験しました。

児童は2グループに分かれて、牛の世話と、犬やうさぎとのふれあいを体験。牛の乳搾りでは、自分の体の何倍もある牛に「大きくて可愛い」とおそろおそろ眺めていましたが、高校生にやさしく乳搾りを教わると「おもしろい」、「おとなしくてかわいい」と何度も体験する姿も。高校生が「みんなの飲む牛乳はこうして牛がくれるんだよ」と説明すると、児童は真剣に聞き入っていました。

犬やうさぎとのふれあい体験では、普段見慣れている動物のためか、すぐに抱き上げる子も。やさしくなでたり、聴診器を動物の胸に当てて、心臓の音を確認したりするなど、積極的にふれあいを楽しんでいました。

